

平成 24 年度 幕別町地域公共交通確保対策協議会 第 1 回分科会会議録

1 開催日時

平成24年 7 月 24 日（火） 午前 9 時 50 分から午後 14 時 43 分まで

2 開催場所

コミュニティバス試乗及び幕別町役場庁舎 4 階会議室

3 出席者等

- (1) 委員の数 11名
- (2) 出席委員数等

所 属 等	氏 名
幕別地区公区長代表	高橋 勝雄
札内地区公区長代表	工藤 伸
幕別町民生委員児童委員協議会	大石 洋子
幕別町消費者協会	永井 ケイ子
幕別町 P T A 連合会	牛尾 義美
幕別町老人クラブ連合会	吉崎 澄三郎
幕別町障害者（児）団体連絡協議会	土谷 進
計	7 名

- (3) 事務局：古川企画室長、伊藤参事、岡田副主幹、河村副主幹
- (4) 日本データサービス㈱：源野主任技師、北川技師

4 会議次第

- (1) コミュニティバスの試乗
- (2) 開会
- (3) 分科会長挨拶
- (4) 報告事項
 - ア 7 月のコミュニティバス試験運行の状況について
- (5) 議案
 - ア 住民アンケート調査について
- (6) その他
 - ア コミュニティバス運行ルート及び運行時刻について
 - イ 町営バス駒畠線の今後の運行形態について
 - ウ 農村部の公共交通形態について
- (7) 閉会

5 議事の結果

- (1) コミュニティバスの試乗 9：50～12：20
札内線 2 便（9：50～11：00）及び幕別線 3 便（11：50～12：20）に試乗した。
- (2) 開会
- (3) 分科会長挨拶

(4) 報告事項

- ア 7月のコミュニティバス試験運行の状況について
資料1に基づき事務局から説明
質疑なし

(5) 議案

- ア 住民アンケート調査について
資料2に基づき事務局から説明
質疑なし
原案のとおり承認

(6) その他

- ア コミュニティバス運行ルート及び運行時刻について（意見交換）
資料3に基づき事務局から説明

【質疑・意見等】

- 認知度が低いと感じた。毎月回覧でも良いので、住民に周知することが大切である。
- 逆周りがあったほうがいい。運行間隔を20分から30分としたほうが利用しやすい（老人クラブの意見）。
- 乗り心地が悪い。運行時間の設定に無理がある。多くの人に知ってもらうことが大切である。
- 試験運行のバスでは車椅子対応になっていない。車椅子対応にすべき。障がい者に対しては、料金が半額にならないか検討してほしい。ひまわりの人が札内寮に仕事に行っているので、乗り継ぎが良ければコミバスで通わせたい。白人小学校前にバス停があった方が利用しやすい。
- 十勝大福本舗は工場であり、大型車両の出入がある。バス停の設置位置としては危険。停留所の名称と設置場所が違う（あけぼの公園前、寿町近隣センター前等）。寿町、緑町など住宅地の中を走らせてほしい。
- 認知度が低い。理解していない人が多い。どのような利用方法があるのか、利用の仕方を示してアピールしていただきたい。例えば「旭町9時55発に乗り、どこで降りてパークゴルフをして、幕別駅11時50発に乗り帰宅できます。」など。アンケート調査票について、料金の設問回答の表記がわかりにくい。
- 幕別と札内をつなぐことは考えていないのか。
- 事務局～平成14年に試験運行を行った時は、幕別札内間の運行を行っていた。今回は、幕別札内間においては、JRや十勝バスがすでに運行しており、もともとあった公共交通の利用が減るようなことはなるべく避けたい。よって、幕別、札内それぞれの地域で完結したい。平成14年の試験運行時は、幕別札内間の利用はそれほど好評ではなかった。
- 事務局～実際に本運行するとなった場合には、音更で運行しているノンステップバスの導入を検討したい。住宅地の中を走らせることは、一時停止が多くあったりするため、道路状況を考慮して現在の試験運行のルートとした。停留所と場所については、もう少しわかりやすい名称に改めるよう検討する。運行ルートについては、除雪のことなども考慮し、割合太い路線を選定した。乗り心地と利便性を考えながら11月には若干の変更も検討したい。

- 今回のコミバス運行については、スクールバス利用や運行時間の問題もあるので、子供のことはあまり考えなくてはいいいのでは。
- 7月1日より試験運行を始め、色々な意見や要望があるが、今後さらに自分勝手な意見が出るであろう。したがって、地域公共交通確保の意義を考えなければならない。交通弱者のことを最優先に考えていただきたい。
- 今後みなさんからいただいた意見を参考に、事務局で更に検討していただきたい。

イ 町営バス駒島線の今後の運行形態について（情報提供）

資料4に基づき事務局から説明

【質疑・意見等】

- デマンド運行をするとしたら区域が増えるのか。
- 事務局～今回情報提供したデマンド運行は区域運行であって路線運行ではないが、区域を広げればその分費用は増す。
- 料金はいくらか。
- 事務局～タクシーより安く、バスより高い。大正の例を挙げると、一番遠い区間で1,000円となっており、市街地に近くなるにつれて700円、500円と区域により違う。

ウ 農村部の公共交通形態について（情報提供）

資料5に基づき事務局から説明

【質疑・意見等】

- 実態がわからない。農村部で何を望んでいるのかわからないので意見を述べられない。
- 農村部に関してはほとんどが家族同居しているので、コミバスを利用するより家族が送迎することで親子関係を大事にしてほしい。
- 小学生が学校に通うのに、コミバスの利用を配慮する必要があるのか。そのような子供がどのように育つのか。今、社会問題になっている。どのような社会を我々が目指すのか。その中でコミバスがどのような役割を果たすべきなのか考える必要がある。
- 今、農村部で必ずしも家族同居ではない。高齢化が進み後継者がいない世帯もある。農村部がどのような状況なのか。
- 財源があれば、色々な要望に応えられが、財政がひっ迫している中で、どこまでやれるか考えていかなければいけない。

以上